

# 父の背中を見て育った少女が、 今や父と同じ土木の世界で活躍



白石区土木センター(札幌市白石区土木部)

維持管理課維持係  
技術職員 野口 貴子 さん

## 明石海峡大橋のような 大きなものを造りたい

土木の世界で、うら若き女性が活躍。それが札幌市白石区土木部維持管理課維持係で技術職員として所属する野口貴子<sup>あきこ</sup>さんです。

「主に市の生活道路の維持管理に携わり、年間を通じて計画的に補修したり、市民の要望があれば現地へ赴き、相談しながらメンテナンスをしていくという仕事をしています。好きな分野で働け、とても充実した毎日を送っているんですよ」と、その口調は気負ったところもなく、ともしれば男性中心の職場でも、ごくごく自然体です。情報交換やチームワークが大切な仕事だけに、とりたてて女性であることを意識することもないそうです。

神戸で生まれた野口さんは、小学1年で石川県金沢市に引っ越し、大学院を卒業するまで金沢で過ごしました。すでに他界した父親が砂防ダムの仕事に就く土木マン。幼い頃から現場近くまで行っては、遠巻きに父親の仕事をする姿を目に焼き付けてきたといいます。また高校2年の時に明石海峡大橋の大きさに圧倒

「こんにちは」と、明るい挨拶とともに目の前に現れた人こそ、道路工事の現場に華を添える女性の技術者。「道路が良くなったので、安心して利用できます」の声を励みに、今日もやわらかな笑顔で、地域住民とコミュニケーションを図っています。

され「将来はあんな大きなものを造りたい」と思うようになり、進路はいつしか土木へ。同様に理系で、建築学科にも興味はありましたが「家は、そこに住む家族のため。でも土木建造物は多くの人に使ってもらえますし、いろいろな人の役に立てるのが魅力」と、金沢大学工学部土木建設工学科に進み、大学や大学院ではコンクリートの勉強を専門にしてきました。加賀百万石の金沢は歴史があるだけに、まだまだ男は男らしく、女は女らしくという考え方が残っている部分もあり、「どうして女の子が工学部？ しかも土木？」と不思議がられ、親戚からは「蛙の子は蛙」と妙な納得のされ方もされたそうですが、当の本人は「気がついたらただけ」とあっさり。周囲が思っている程、特別なことではなかったようです。

## 雪国ならではの道路で 滑って転び、驚きの連続

大学院卒業後は東京都の葛飾区役所に就職し、そこでは2年間公園の設計業務から工事監督までこなしました。大学時代からお付き合いしていた北海道出身の

ご主人と結婚したことを機に、葛飾区役所を退職。札幌市職員の試験を受け、現在の職にあります。札幌へ来た当初は気候風土の違いはもちろん、北海道特有の道路状況に驚きの連続でした。スニーカーをはいて冬道を歩いていたら見事に転び「滑らないようにギザギザの付いた冬靴が売ってるから」と靴屋をのぞけば、凍結した路面に対応する靴が並んでいたことに軽いカルチャーショックも。いくら金沢でも雪が降るとはいえ、雪質が全く違い、あちらは水分をどっしり含んだ重い雪。冬期間の幹線道路は地下水を汲み上げた水を流し、それが雪を融かすので除雪車による除雪という概念がありません。ところが札幌の冬は、除雪車が積み上げる雪山が出来て当たり前。グレーダーが除雪するその光景にびっくりし、生まれ育った金沢とはずいぶん道路を取り巻く環境が違っていました。

また東京にいた時は通年というサイクルで工事を考えましたが、札幌ではそうもいきません。限定された期間でより安全で快適な道路の維持管理をしていくかということも、これまでと大きく違います。

### これからは維持管理の時代 危険を察知する感覚も大事

「白石区土木センターに配属となり、“道路が陥没しています”というお電話を市民の方からいただくこともあります。原因の一つとして冬期間凍結していた水分が気温の上昇に伴い溶けて、空洞化したことにより発生すると考えられているのですが、そうした場面に遭遇するようになったのも札幌に来てから。これまで経験したことのない、勉強になることがたくさんあるんです。そうそう、冬の出動は寒さ対策として、ちょっとおばさんぽいかな～、なんていうアンダーウェアを着込むのが基本。まずは暖かさを優先します。見えないから、いいんです」と、照れもせず笑顔で話します。

また市民からの連絡を受け、状況を確認するためヘルメットに作業服で現場へ行くと「てっきり男性が来るのかと思っていました」「時代も変わったんですね」と言われることもあります。野口さんのような女性が話を聞いてくれるとあって、相手もすぐに打ち解け話が進むことも珍しくないそうです。

こうして道路の仕事に関わるようになり、自然豊か



白石区土木センター 維持管理課維持係職員一同

な北海道をご主人と一緒にドライブしても、金沢に帰省しても道路のことが気になるようになり、「もはや職業病ですね。でも主人は下水関係の仕事していて、行く先々でマンホールの蓋の写真を撮ったりして、あまりいないタイプの土木夫婦なんですよ」と、楽しそうにプライベートを公開。

日々の仕事を通じて野口さんは「いかに維持管理が大切かということを実感しています。新設ももちろん大事ですが、これからの時代は維持管理が非常に重要になってくると思いますし、道路づくりもより維持管理を視野に入れて行われるべきでしょうね。また私たちは、常に“危ない”という感覚を研ぎすませ、利用者の安全には敏感であるべきだと考えています」と、最後にしっかりと重みのある言葉をいただきました。



野口さんから白石区土木センターが関わった区内の生活道路